

古稀の同窓会

‘11年11月（平成23年） 長田和男

10月31日、新大阪駅8時59分発、鹿児島行き新幹線「さくら」に乗った。辰巳、香、尚子と私の4名。（文中君、さんづけ略）

前回の鹿児島見物同窓会（平成16年11月）から数えて丸7年ぶり、おそらく今回で最後となるであろう古稀（70才）の同窓会に私の心は浮き立った。

康男、勝子、律子の3名は各々の事情で参加できなかった。今回の4人一緒の旅も最初で最後の旅になるだろうと私は思った。

車中、持参の焼酎を飲みながらおしゃべりしているうちに、午後1時9分（4時間10分）鹿児島中央駅に着いた。（料金一人21,300円）昔は急行きりしま号で24時間もかかった。

駅のホームで修君が私達を迎えてくれた。一杯1,000円のラーメンをご馳走になった。（観光地値段とはいえ少し高すぎないか？）修君の車で鹿児島港へ。トッピーも速い。出航3時、わずか1時間半で西之表港についた。大隅海峡の青黒い黒潮のうねりが印象に残った。

その後バスで上中まで。辰巳君のレンタカーでそれぞれの泊り先まで送ってもらった。2日間は各々が親類づきあい、用事などをすませた。

私はいとこの家などを回った。去る60歳定年の際は、いとこ達を招いて一夜熊野のホテルで宴会をして喜ばれた。

今回、いとこ達にも老いを感じた。幼な友達の南海雄・安弘君とも一晩飲んで子供の頃の話がはずんだ。

あの頃は、ドジョウやタニシがいっぱいいた。もう一度、エビかぶせや
広田の海でクサビ（ベラ）など小魚を釣りたいものだ。

そのときの釣り竿は竹の自家製でなければいけない。浦島太郎のような
白いヒゲがあうかもしれない。



11月3日、いよいよ同窓会初日、上中の前の峯グラウンドに10時過
ぎから集まった。当日は南種子町の〈ふるさと祭り〉の日。集合のあと、
各校区の踊りなどを見物した。

始め町長を囲んで記念写真も撮った。ことに長谷校区のエイサー踊りは
勇ましかった。沖縄から踊り手を招いて教わったそうだ。

女子（おなごん）衆が作ってきてくれた、おにぎりや煮メなどの昼食が
うまかった。

イサ子さんが持ってきてくれた川エビを久しぶりに味わった。子供の頃
広田の川でよく「エビかぶせ」をしたものだ。どの川でどのように捕った
のか、イサ子さんに詳しく聞けなかったことが悔やまれた。一級下の南
海雄君の話では、今はミソを餌にしたならよく捕れるそうだ。

午後2時すぎ、祭り見物を切り上げて車で荃永へ向かった。故春江さん
の墓前に花をあげ供養した。前回の同窓会以後亡くなった同窓生に松田
（旧姓）多数子さんがいられる。私の記憶では、5名の同窓生が亡くな
っていられる。合掌。そのあと門倉岬へ回った。荃永から門倉岬への道
中、下中などの田んぼが、思いのほか広いのに驚いた。

第1夜は、上中の海野旅館での宴会で始まった。宴会の前、皆で河内温
泉にくり込んだ。河内温泉は設備の良い町営温泉だ。

乾杯！まずは今回の同窓会を実行してくれた幹事の弘君をはじめ種子島在住10名の同窓生に感謝！宴会の料理には伊勢エビの半身なども出て豪華だった。弘君が捕ったガサミもでた。

座の中に恩師・有川先生のお姿がなかった。まるで遠足の時に引率の先生がいないような、さびしい、心細い気持ちだった。

賢一君が私の隣に座った。中学卒業以来55年ぶりの再会だった。話を聞くと佐賀大学を出て宮崎の公立高校で長らく英語を教えたと言う。定年後も5年間私立高校に勤めたそうだ。

今回の出席者は総勢20名だった。残念なことに、これまでの同窓会に一度も姿を見せてくれなかった友人もいた。おーい！故郷を忘れたか！友垣を忘れたか！そんなことはあるまい。やんどころなき事情があって来れなかったのだろう、と私は心の中で思った。

この夜、皆を驚かせた発表があった。四国に住む小池光弘君から、平山小学校に130万円の寄附をしたいと申し出があった。同時に今回の同窓会にも20万円の寄付をしてくれた。合計で150万円（おかげで会費五千円引き）。このほか、寄付の経費として30万円（長田預かり）。

（この金は余ったら光弘君に返さなければならない。）

彼の永年の小遣いを貯めた金だそうだ。敬服！

ご存知のように、当時、平山中と郵便局の間に小池衣料店があった。彼は、中学3年から大阪に転校し、苦勞の末、機械設計の会社を起し、社長としてこれまで遊ぶ暇もなく働いたそうだ。一時期はだいぶ儲かったとか。弘、修、私の3名が寄付の世話人役を彼から頼まれた。



近くて遠い島、冬は上中の前之峯グラウンドや大曲などの高台から南西

の洋上遥かに雪を冠った連山が望まれる。それが屋久島だ。イモの形でいえば、徳島産のカライモが種子島、安納イモが屋久島だ。私が離島するまでの少年時代は、屋久島は想像をかき立てるだけの島だった。

それ以上に大阪や東京など本土の方へ私の目は向いていた。

当時は現在のような種子—屋久間の航路もなかった。親が子供を観光や見物にどこかに連れていくような余裕もない時代だった。

ところがなんと、いまは屋久島が世界自然遺産（1993年登録）になって人気は急上昇している。年間の観光客は10万人を超えるとか。

私の山仲間も何組か屋久島登山に行ってきた。屋久島は、今や登山者・観光客のあこがれの的だ。但し登山者はテント、食糧持参が多く、トイレは使うが、金はあまり島に落とさないようだ。（参考・山田洋二監督の映画・学校Ⅲ？）

屋久島に対抗して、種子島のロケット基地はどうなんだ？と弘君に聞いたら、それが残念なことにロケット発射の日時が2度、3度変更になることが多く、観光としてはむずかしいのだという。

（話は横道にそれるが、いま大阪では安納イモが大人気だ。私も食べている。値は高いが昔の人参イモより甘くておいしい。畑のある人は安納イモ栽培が有望ではないか？）

11月4日8時海野旅館を車で出発。西之表港9時45分発、屋久島へ。宮之浦港下船10時30分。〈本日小雨、風浪少し高し〉の天候。

〈月に35日は雨が降る〉（林芙美子）と屋久島の代名詞のように言われている。島の年間雨量は8,000～一万ミリで本土の倍ほど多い。10時40分、宮之浦から定期観光バスに乗り、白谷雲水峡へ。

雲水峡でバスを降り、苔むした森のコースを小一時間ほど歩いた。標高 710M 地点に弥生杉があった。樹高 26.1M、樹齢 3,000 年。〈以外と きつかったな〉と正夫君が私に言った。

屋久島は海からすぐに山が迫っている。なにしろ標高千 M を越える山々が最高峰の宮之浦岳 (1963M) をはじめ 46 座もあるというから驚く。島の 9 割は山林、そのまた 8 割は国有林。バスは道路ぎわの樹の枝をこすりながら走る。

島をタテにみると、亜熱帯から亜寒帯までの気候が分布し、島の大半は常緑広葉樹・針葉樹などに覆われている。

明るい海岸線と低地で広い耕作地のある種子島とは対照的だ。

宮之浦帰着 12 時 50 分。屋久島観光文化村センターでの昼食はトビウオ料理だった。近くの安房港はトビウオの水揚げ日本一を誇る。私の舌では、塩干魚はサケに次いでトビウオがうまい。

午後 1 時 50 分、再びバスに乗り大川 (オオコ) の千尋 (チヒロ) の滝へ。島をぐるりと半周する。深い森林は、シカ、サル、イノシシなどの野生動物の天国だ。島特産のポンカン、タンカンなどの収穫期には電線に電流を流して被害を防ぐそうだ。あいにくの雨だったが、大川・千尋の滝は迫力があつた。タテ 200M、横幅 400M もあるという。

帰りの車中、バスガイドさんは〈平和の大切さ〉について熱っぽくしゃべった。〈この島の貴重な自然環境を守るためには、何よりも平和でなければなりません〉戦時中は島で軍事用の鉱物採掘もあつたという(タングステン?)。この旅で平和の説法を聞けるとは思わなかつた。

夜は宮之浦の田代別館で宴会。今は珍しくなつたアサヒガニもでた。



11月5日、宮之浦港発10時、西之表港へ。洋上に馬毛島が見えてきた。広さ約8平方キロのこの島は防衛省が米空母艦載機の発着訓練の移転候補地として'11年6月、日米共同文書に明記したことで揺れている。すでに島の乱開発のため、トビウオなどの魚も減った。漁師たち同士は土地の売却問題をめぐって裁判を起し、互いの絆も絶たれたという。

(’11年7月2日、同10月3～5日付、朝日新聞)

私は船の中から宝の島＝馬毛島の平和を祈った。西之表港着11時、解散。

(追記)

私は帰阪を3日遅らせ、修君は再来島し、弘君と3名、そろって11月7日平山小学校に出向き、寄附の申し入れをしました。

校長先生はくビックリしました。思っていたよりひとケタちがいました。>と喜んでくれました。

こちらとしてはピアノ購入を提案しましたが、すでに2台あるとのこと。後日、校門の門扉と校旗の購入費にあてたい、という連絡を弘君からもらいました。来る2月か3月に贈呈式を行う予定です。

完